

シルバーパワー事業の意義と 今後の事業展開に向けた課題

四区八学区における三年間のモデル事業を終えて、今年度から八区二四学区に拡大しての事業展開となります。前号においては、モデル実施三年間の振り返りをしましたが、改めてこの事業の意義と今後の事業展開に向けた課題を整理します。

※シルバーパワー事業の意義

意義については原点に戻り、事業実施要綱から整理してみます。

【事業の目的】

- (1) シルバー世代がボランティア活動を行うための環境を整備する。
- (2) シルバー世代がボランティア活動を行うことにより地域が抱える公的制度では解決で

きない課題を解決する力を活性化させるための事業（地域力再生事業）を実施することにより、**シルバー世代の生きがい及び役立ち感を増進し、地域住民同士の支え合いの意識を高め、助け合い活動を活性化**する。

【地域力再生事業の内容】

- (1) ボランティア活動に関する広報及び普及啓発
- (2) 地域支えあい活動活性化事業
 - ① 地域福祉活動を行うボランティアやNPO等の立上げに関する支援
 - ② 地域におけるボランティアやNPO等のネットワークづくり
 - ③ 地域における協働・ネットワーク

ワークに関する研修

- ④ 推進協等が行う個別支援事業の立上げに関する支援
- ⑤ ボランティアポイント制度の実施

※今後の事業展開に向けた課題

課題については、前述の二点の趣旨がモデル実施三年間でどの程度達成できたか、から整理してみます。

- (1) シルバー世代のボランティア活動への参加

年度	人数
平成20年度	674人
平成21年度	1,070人
平成22年度	1,175人

平成二二年度におけるボランティアカード配布人数（「活動への参加者・実人数は、一学区当たり、二四七人となります。五〇歳以上の方が対象となりますが、五〇歳以上人口の約四%となります。シルバー世代が学区におけるボランティア活動にどの程度参加するのが適当なのか、判断に迷うと

充を図ることが必要です。

このコーナーは「名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業（市委託事業）」の一環で作成しました。

シルバーパワーを活用した地域力再生事業 全体イメージ図



ころですが、事業の中核を担う地域福祉推進協議会の構成団体に所属していない、**新たな参加者が五六・三%**いることは、事業実施の成果であると言えます。

しかし、今後も参加促進を促すためには、楽しくボランティア活動ができる工夫などが必要です。

- (2) ボランティアによる地域課題の解決

地域支えあい活動(個別支援事業):13事業	
平成二十一年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数 1,619件 ・ボランティア活動による解決件数 1,566件
主な支援の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出し、清掃・整理整頓等の日常生活の支援 ・資源回収の支援、小修繕等 ・見守りや訪問、声かけ、傾聴等 ・通院や買い物等の外出支援(入院の付添・入院準備、買い物代行等を含む)

個人の困りごとに対応する「地域支えあい活動(個別支援事業)」を「二三事業を実施すること」で、「一学区当たり二〇二件の相談を受けたことになり、そのほとんどが**ボランティア活動により解決している**ことは、注目すべき成果です。

しかし、学区間の格差がありまので、相談件数及びボランティア活動による解決件数を増やしていく工夫が必要です。

今後の事業展開も、右のページの「全体イメージ図」の個人のちょっとした困りごとの解決のための取り組みを活用しながら、地域課題の把握や地域支えあい活動を中心に事業実施することで、成果をだしていくことが必要です。

